

考古学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
考古学概論	日本考古学概説	2	藤澤 敦	3	前期 月曜日 2講時	
考古学概論	日本考古学概説	2	鹿又 喜隆	4	後期 月曜日 3講時	
考古学基礎講読	考古学資料読解	2	鹿又 喜隆	3	前期 金曜日 2講時	
考古学基礎実習	考古学資料の観察と記録	2	鹿又 喜隆	4	後期 金曜日 1講時 後期 金曜日 2講時	
考古学各論	人類の進化と考古学	2	佐野 勝宏	5	前期 月曜日 2講時	
考古学各論	東北大学収蔵の考古学資料	2	藤澤 敦	5	前期 火曜日 3講時	
考古学各論	先史文化の考古学	2	菅野 智則	6	後期 木曜日 4講時	
考古学各論	考古学の方法と実践	2	佐野 勝宏	6	後期 月曜日 2講時	
考古学各論	日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究	2	藤澤 敦	6	後期 火曜日 3講時	
考古学各論	狩猟採集社会の考古学	2	中沢 祐一	集中(6)	集中講義	
考古学講読	考古基礎理論入門	2	中沢 祐一	6	後期 金曜日 2講時	
考古学演習	考古学研究史	2	鹿又 喜隆	5	前期 金曜日 4講時	
考古学演習	考古学の方法と理論	2	鹿又 喜隆	6	後期 金曜日 4講時	
考古学実習	考古学の調査と資料分析(1)	2	鹿又 喜隆	5	前期 水曜日 3講時 前期 水曜日 4講時	
考古学実習	考古学資料分析法(2)	2	鹿又 喜隆	6	後期 水曜日 3講時 後期 水曜日 4講時	

科目名：考古学概論／ Archaeology (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：藤澤 敦

コード：LB31201, 科目ナンバリング：LHM-HIS202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本考古学概説

2. Course Title (授業題目)：General Lecture of Japanese Archaeology

3. 授業の目的と概要：本講義では、考古学の研究方法についての基礎的知識を得ることを目的とします。旧石器時代から近現代まで、考古学が幅広い時代と資料を対象として発展してきたことを、日本の事例を中心に紹介します。実際の調査、分析の事例を取り上げ、考古学の現在の状況についての理解を深めます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course introduces fundamental knowledge of archaeological research methods. It's introduced focusing on Japanese cases that an archaeology study has developed targeted for the wide time and material from the Paleolithic era to near today. The course covers a variety of topics in the discipline of archaeology.

5. 学修の到達目標：(1) 考古学研究の方法と研究の歴史を理解できるようになる。

(2) 考古学の資料の特質を理解できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The course helps students develop their knowledge on archaeological material, theory and research methods.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・ホモサピエンスの世界への旅 (導入)
2. ローム層に埋もれた石器 (旧石器時代)
3. 縄文文化という枠組み (縄文時代)
4. 貝塚から復原する生活 (縄文時代)
5. 稲作文化の探求 (弥生時代)
6. 鏡に映る世界 (弥生～古墳時代)
7. 前方後円墳 (古墳時代)
8. 古墳文化と続縄文文化 (古墳時代)
9. 宮都と寺院 (飛鳥時代～奈良・平安時代)
10. 古代国家と領域 (飛鳥時代～奈良時代・平安時代)
11. 考古資料と文字 (飛鳥時代～奈良・平安時代)
12. 山城と石垣 (中世～近世)
13. 海を渡る陶磁器 (中世～近世)
14. 近代化の実像 (明治時代)
15. 戦跡の考古学 (昭和時代)

8. 成績評価方法：

出席と小レポートを合わせて総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

資料を随時配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：考古学概論／ Archaeology (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LB41301, 科目ナンバリング：LHM-HIS202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本考古学概説

2. Course Title (授業題目)：General Lecture of Japanese Archaeology

3. 授業の目的と概要：考古学は、歴史学の一分野です。特に先史時代研究において考古学は大きな役割を果たしています。本講義では、考古学によって明らかにされた歴史像を通史的に概観します。さらに、研究史を引用しながら、基礎的な知識と考古学的研究方法の発展についても紹介します。近年の多角的な研究分野との連携によって復元されていく人類史は、広い学際的な研究領域での成果へと繋がっています。また、発掘調査から得られる情報は、非常に多様であり、現在の人類が抱える問題に対しても解答を与えてくれる可能性を秘めています。講義では、パワーポイントを用いて解説します。多くの写真や図表を用いて、理解を促す計画です。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand chronological order and prehistoric cultures in prehistoric period. This course also offers an opportunity to learn interdisciplinary theories and methods in the history of archaeological researches. Especially, this course proposes concrete images of prehistoric human activities by using numerous photos, tables and drawings.

5. 学修の到達目標：(1) 日本考古学を歴史学的通史の一部として理解する。(2) 考古学の研究方法を多角的視点から学ぶ。(3) 人類学、歴史学、自然科学分野などとの連携によって復元されていく、今日的な考古学研究の実態について理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this lecture is that students understand (1) Japanese archaeology as a part of Japanese history from the chronological perspective, (2) archaeological methods from various viewpoints and (3) recent archaeological studies reconstructed by interdisciplinary researches.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは 3t2o62o です。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 本講義のガイダンスと全講義の説明。
2. 人類の起源。他地域進化説とアフリカ起源説
3. アジアの初期人類の文化
4. ホモサピエンスの誕生と拡散
5. 日本列島の人類の出現と後期旧石器時代の開始
6. 日本列島の後期旧石器時代の多様性①
7. 日本列島の後期旧石器時代の多様性②
8. 日本列島の後期旧石器時代の多様性③
9. 旧石器時代から縄文時代へ①
10. 旧石器時代から縄文時代へ②
11. 縄文時代前半の文化
12. 縄文時代後半の文化
13. 弥生時代の考古学
14. 弥生時代研究の現状
15. 続縄文文化と古墳文化の始まり

8. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [70%]・(○) 出席 [30%]

9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

10. 授業時間外学習：講義内で課した課題・質問に関して各自調べること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

オフィスアワー：金曜日 13:30～14:30

科目名：考古学基礎講読／ Archaeology (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

semester：3 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LB35203, 科目ナンバリング：LHM-HIS207J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学資料読解

2. Course Title (授業題目)：Archaeology (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要：本講義の目的は、考古学研究の目的と手法、概念を学び、考古学について自分なりの問題意識・視点を獲得することです。考古学研究は、対象とする時代・地域あるいは研究者によって、理論的・方法的に多様です。そして、研究成果は一次的に報告書、そして研究を通じた論文として発表されますが、報告書や論文にはそれぞれの形式が存在します。形式に沿って構造化された文章に親しむことは、調査・研究資料から正しく情報を引き出すために必要です。具体的な資料の読解を通して、考古学と論文の構造についての知識を獲得しつつ、考古学研究の多様性を認識します。こうした知識の獲得と同時に、自分なりの問題意識・視点をもち、議論できるようになることをめざします。そのため、講義時に内容を報告するとともに、全員で意見交換を行います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this lecture is to learn the purpose, method and concept of archaeological study and to acquire student's own problem awareness / opinion on archaeology.

5. 学修の到達目標：① 考古学の概念や考古学研究の目的について理解し、自分の研究に取り組める知識を深める

② 報告書や学術論文の構造について理解する

③ 考古学研究について自分なりの視点を持ち、議論できるようにする

6. Learning Goals(学修の到達目標)：① To understand the concept of archaeology and the purpose of archaeological study, deepen the knowledge to work on own study

② To understand the structure of reports and academic papers

③ To have own perspective on archaeological study and make discussion possible

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは「amkerid」です。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. ガイダンス

2. 英文読解と議論 (考古学概念の理解)

3. 英文読解と議論 (考古学概念の理解)

4. 英文読解と議論 (考古学概念の理解)

5. 英文読解と議論 (考古学概念の理解)

6. 英文読解と議論 (考古学概念の理解)

7. 考古調査の流れ

8. 報告書読解と議論

9. 報告書読解と議論

10. 報告書読解と議論

11. 論文 (和文・英文) 読解と議論

12. 論文 (和文・英文) 読解と議論

13. 論文 (和文・英文) 読解と議論

14. 論文 (和文・英文) 読解と議論

15. 最終まとめ

8. 成績評価方法：

発表 (40%)・出席および受講態度 (30%)・レポート (30%)

9. 教科書および参考書：

授業時に文献を選択あるいは指示する。適宜資料を配布する。

(例：《Archaeology》などの考古学概論書、発掘調査報告書、英文・和文の関連論文)

10. 授業時間外学習：毎回、各自が課題文献を十分に予習済みであることを前提に進める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：考古学基礎実習／ Archaeology (Introductory Field Work)

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時, 後期 金曜日 2 講時

Semester : 4 単位数 : 2

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LB45201, 科目ナンバリング：LHM-HIS208J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学資料の観察と記録

2. Course Title (授業題目) : Introductory Field Work of Archaeological Materials

3. 授業の目的と概要：考古学研究のなかで、出土した遺物を正確に資料化していく作業は、きわめて重要です。今後の研究の基礎として、そのための基本的な方法、技術、および各種遺物の観察の仕方を学びます。土器・石器などの実測図作製の実習を通して、実証的な研究態度を身につけ、資料に対する観察眼を養い、客観的な資料提示の方法を学びます。実習資料は、実際の出土品を扱います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides sufficient opportunities to draw projected figure of archaeological material as several lithic tools, potteries and a polished stone axe. It is also important to understand manufacture sequence, utilization and breakage of the tool. Precise knowledge on artifact formation process is needed to draw it correctly. Students will obtain actual techniques and methods to understand archaeological materials. They will also be able to express archaeological information on the drawing through this course.

5. 学修の到達目標：(1) 考古学における出土遺物の資料化の意義を理解できるようになる。(2) 特に実測図作成の基本を学び、各種遺物の実測図を作成できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students learn how to draw archaeological material. They also learn how to observe and understand archaeological materials through this course.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義のスケジュールは以下の通りです。

また、Classroom のクラスコードは xg7pjlr です。

1. 考古学における資料化
2. 剥片の実測図作成
3. ツールの実測図作成
4. 石核の実測図作成①
5. 石核の実測図作成②
6. 石核の実測図作成③
7. 磨製石器の実測図作成①
8. 磨製石器の実測図作成②
9. 縄文土器の実測図作成①
10. 縄文土器の実測図作成②
11. 縄文土器の実測図作成③
12. 縄文土器の実測図作成④
13. 土師器・須恵器の実測図作成①
14. 土師器・須恵器の実測図作成②
15. 拓本の作成と断面実測

8. 成績評価方法：

(○) 出席 [30%]・(○) その他 (具体的には、提出課題と受講態度) [70%]

9. 教科書および参考書：

実測図作成に必要な用具の購入について、別途指示します。

10. 授業時間外学習：課題が講義時間内に終わらない場合には宿題になります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

課題の完成にあたっては、随時、教員に確認をもらうこと。特に出席と毎時間の受講態度を重視します。毎回かなりの課題 (実習整理室での宿題) がありますので、受講者全員に積極的な取り組みを期待します。

科目名：考古学各論／ Archaeology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：佐野 勝宏

コード：LB51203, 科目ナンバリング：LHM-HIS303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人類の進化と考古学
2. Course Title (授業題目)：Archaeology and Human Evolution
3. 授業の目的と概要：この授業では、考古文化の発達と人類進化の関係について学ぶ。人類の各進化段階で起きた、認知、行動、文化、社会の発達について学び、人類の生物学的な進化と文化的発達の意味を理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, the correlation between the development of archaeological cultures and the human evolution are explained. Students better understand the significance of the biological evolution of humans and cultural development by learning the advances in cognition, behaviors, cultures and societies corresponding to the human evolution.
5. 学修の到達目標：人類の進化史と考古文化の発達史の概要を把握し、考古文化の発達に関する進化論的な意義についての理解を深める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students are supposed to learn the basis of the human evolution and the development of archaeological cultures so that they can better understand the evolutionary significance of the advances in archaeological cultures.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. 人類の進化史
 3. 道具の出現と発達
 - 4-5. 火の利用の起源
 6. 原人・旧人の出現と拡散
 7. ネアンデルタール人
 - 8-9. DNA 研究からみた進化史
 10. 旧人・新人の交替劇
 11. 狩猟技術の発達史
 - 12-13. 旧石器時代の芸術
 14. 新石器文化の拡散と受容
 15. 家畜化の歴史
8. 成績評価方法：

レポート [70%]・出席 [30%]
9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業中に資料を配付する。適宜、参考文献を紹介する。
10. 授業時間外学習：特に興味がある内容に関して、各自参考文献等で理解を深める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：考古学各論／ Archaeology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：藤澤 敦

コード：LB52301, 科目ナンバリング：LHM-HIS303J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：東北大学収蔵の考古学資料

2. Course Title (授業題目)：Archaeology collection of Tohoku University and history of the research

3. 授業の目的と概要：東北大学には研究の基礎となり成果となった、膨大な資料標本や研究機器類がある。その中には、文学研究科の考古学資料が約20万件あり、これらの資料はおよそ90年間以上にわたる調査と研究によって収集されてきたものである。

本講義では、これらの資料について解説し、これら資料に基づいて構築された学説の意義について紹介するとともに、その研究史的意義と今日的な意義について検討する。本年度は、東北大学において進められてきた縄文時代および弥生時代研究の特質について検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In Tohoku University there are many collections of the various fields. Approximately 200,000 of archaeology artifacts are in those. Those archaeology artifacts has been collected by investigations for more than 90 years.

This course provides explanations of archaeology collection of Tohoku University and the academic significance of the collection. In fiscal year 2023, it's explained mainly about research works about Jomon culture and Yayoi culture advanced in Tohoku university.

5. 学修の到達目標：(1) 東北大学が収蔵する考古学資料について理解する。

(2) 東北大学の考古学資料の学術的意義を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students understand:

(1) Archaeology collection of Tohoku University.

(2) The academic significance of the collection.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：オンライン授業（主としてオンデマンド型遠隔授業）

1. 講義の概要と進め方の説明および導入
2. 東北大学での考古学研究の歴史
3. 東北大学収蔵の考古学資料の概要 (1)
4. 東北大学収蔵の考古学資料の概要 (2)
5. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (1)
6. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (2)
7. 東北大学における縄文文化研究 (1)
8. 東北大学における縄文文化研究 (2)
9. 東北大学における縄文文化研究 (3)
10. 東北大学における縄文文化研究 (4)
11. 東北大学における弥生文化研究 (1)
12. 東北大学における弥生文化研究 (2)
13. 東北大学における弥生文化研究 (3)
14. 東北大学における弥生文化研究 (4)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席と小レポートを合わせて総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

資料を随時配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：考古学各論／ Archaeology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：菅野 智則

コード：LB64401, 科目ナンバリング：LHM-HIS303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：先史文化の考古学
2. Course Title (授業題目)：Archeology of the prehistory culture
3. 授業の目的と概要：本授業では、日本列島の先史時代である所謂「縄文時代」における先史文化（縄文文化）を理解することを目的とします。この縄文文化に関する考古学研究は、これまで土器や石器等の遺物が主要な対象となり、研究が進められてきました。しかし、縄文文化を理解するためには多種多様な側面から研究する必要があります。例えば、動植物遺存体の研究からは食生活や周囲の環境、竪穴住居跡や墓などの諸施設の研究からは居住形態や社会構造などの縄文文化の一端を明らかにすることができます。そのほかには、考古学に限らず自然環境に関する研究などの他分野の様々な研究も縄文文化を理解する上では重要です。本授業では、このような縄文文化に関する多種多様な研究の歴史とその方法を学び、これまでの研究により構築されてきた縄文文化観を理解することを当初の目的とします。また、本授業では北米北西海岸部における先史文化に関するこれまでの研究を一事例とし、縄文文化の相対的な位置を理解することにより、比較文化的視点を学ぶことを最終的な目的とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this class is to understand the prehistoric culture (“Jomon culture”) of the Japanese archipelago during the so-called “Jomon period”. Archaeological research on the Jomon culture has so far focused on pottery, stone tools, and other artifacts. However, in order to understand the Jomon culture, it is necessary to study it from many different aspects. For example, studies of plant and animal remains can reveal aspects of the Jomon culture, such as dietary habits and the surrounding environment, and studies of pit dwellings and graves, and other facilities can reveal residential patterns and social structures. In addition to archaeology, various other fields of research, such as those related to the natural environment, are also important in understanding the Jomon culture. The initial purpose of this class is to learn about the history and methods of these various studies of the Jomon culture, and to understand the views of the Jomon culture that have been developed through research to date. The final objective of this class is to learn about the relative position of Jomon culture from the perspective of comparative culture, using the research on prehistoric culture on the northwest coast of North America as a case study.
5. 学修の到達目標：(1) 縄文文化に関するこれまでの研究の歴史を理解する。(2) 縄文文化研究における多種多様な視点や研究方法を理解する。(3) 縄文文化にかぎらず広く先史文化一般を理解するための基礎を学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Understand the history of research on Jomon culture to date. (2) Understand the various perspectives and research methods used in the study of Jomon culture. (3) Learn the fundamentals for understanding not only Jomon culture but also prehistoric culture in general
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 回目：本授業の授業の目的と到達目標について説明する。そのほか、論文の読み方等について解説する。
 - 2・3 回目：縄文文化の研究手法。基本的な研究方法に関して解説する。最も基礎的なものには縄文土器の型式学的方法等の基礎的な研究方法について概観する。
 - 4～7 回目：縄文時代研究史について解説する。第2次世界大戦前後における縄文文化研究、1980年代からの新発見による縄文時代研究の進展、近年の新たな展開の3段階に分けて、それぞれの時代の研究内容を解説し、研究の視点と方法の変化について理解する。
 - 8 回目：「縄文時代」という枠組みについて解説する。「縄文時代」という時代設定・概念が果たして適切なものか、研究史に関する講義のまとめとして説明する。
 - 9～14 回目：縄文時代を成立期（草創期・早期）・展開期（前期・中期）・転換期（後期・晩期）の3期に区分して、それぞれの時期に関して2回ずつ、各時期の土器型式や各種遺物等の物質文化、あるいは生業活動を含めた居住形態に関する研究について説明する。
 - 15 回目：縄文文化と北米北西海岸部先史文化における生業活動の差異について、北米北西海岸部における貝塚の調査事例と日本の事例と比較しながら説明する。その上で、講義のまとめとして、両文化の比較を行い、今後の研究の方向性について解説する。
8. 成績評価方法：

(○) レポート [60%]・ (○) 出席 [40%]
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は講義中に随時提示する。
10. 授業時間外学習：講義内でレポート内容に応じた問題を設定するので、時間外に講義内に提示した参考書などで調べること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:15～17:15（片平キャンパス・埋蔵文化財調査室）

メールアドレス tomonori.kanno.d4@tohoku.ac.jp

科目名：考古学各論／ Archaeology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：佐野 勝宏

コード：LB61202, 科目ナンバリング：LHM-HIS303J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学の方法と実践

2. Course Title (授業題目) : Archaeological Method and Practice

3. 授業の目的と概要：考古学の研究は、様々な分析方法を用いて行われる。この授業では、その分析方法と具体的な実践の仕方について学ぶ。いくつかの分析方法は、授業中に受講者が実際に取り組み実践する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Archaeological studies are practiced using multiple analytical methods. In this course, students understand the analytical methods and its procedures. Students also practice some important analytical methods.

5. 学修の到達目標：考古学で行われる様々な分析方法について学び、各分析方法がどのように考古学研究に活かされ実践されているのか理解する。また、いくつかの分析方法を実践することで、そのやり方を覚える。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students are supposed to learn diverse analytical methods and to better understand how the analytical methods are practiced for archaeological studies. Students learn the procedures by practicing some analytical methods themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2-5. 実験考古学の方法と実践

6-9. 3D 考古学の方法と実践

10-13. GIS 考古学の方法と実践

14. 暦年較正の方法と実践

15. 遺跡形成研究

8. 成績評価方法：

レポート [30%]・課題 [40%]・出席 [30%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業中に資料を配付する。適宜、参考文献を紹介する。

10. 授業時間外学習：特に興味がある内容に関して、各自参考文献等で理解を深める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：考古学各論／ Archaeology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：藤澤 敦

コード：LB62301, 科目ナンバリング：LHM-HIS303J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究

2. Course Title (授業題目)：Japanese Cultural Properties Protection Law system and the characteristic of the archaeological study

3. 授業の目的と概要：日本では、発掘調査の圧倒的多数が、開発に伴う調査であることが特徴である。このような調査は、文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政の一環として、行政機関によって実施されている。このことは日本における考古学研究に大きな影響を与えている。

本講義では、文化財保護法や関連する諸規定と、それに基づく埋蔵文化財保護行政の実際について解説する。あわせて、文化財保護行政の今後の展望についても検討し、その中での考古学研究のあり方について考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In Japan, majority of excavation is carried out in advance of construction or other land development. Such excavation is performed as a part of preservation of cultural properties administration. This situation is having a big influence on an archaeology study in Japan. This course provides explanations of Act on Protection of Cultural Properties and administrative practical business affair based on a law. Future's view of cultural property protection administration is also considered.

5. 学修の到達目標：(1) 日本の埋蔵文化財保護行政の枠組みと実務について理解する。

(2) 日本の文化財保護行政と考古学研究の関係について理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students understand:

(1) Basic structure of buried cultural properties protection administration in Japan

(2) Relation between cultural property protection administration and archaeological studies in Japan

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この授業では、屋外での史跡見学を行います。

1. 授業概要と進め方の解説および導入
2. 日本の考古学をめぐる状況
3. 文化財保護法の基本理念と構成
4. 教育委員会制度
5. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (1)
6. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (2)
7. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (3)
8. 国指定史跡制度
9. 国史跡の保存管理と整備活用
10. 史跡仙台城跡の見学
11. これからの文化財保護行政 (1)
12. これからの文化財保護行政 (2)
13. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (1)
14. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席と小レポートを合わせて総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

資料を随時配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：考古学各論／ Archaeology (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：集中(6) 単位数：2

担当教員：中沢 祐一

コード：LB98822, 科目ナンバリング：LHM-HIS303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：狩猟採集社会の考古学

2. Course Title (授業題目)：Archaeology of hunter-gatherer societies

3. 授業の目的と概要：わたしたちの食卓は米、芋、パン、チーズ、ハムなどの農耕・牧畜によって得られた資源が中心であるが、人類は長らく、哺乳動物、魚介、ナッツなどを狩猟採集によって獲得してきた歴史がある。この狩猟採集社会は、生活様式も単純で停滞していたと思われがちだが、実際には地域的にも時間的にも多様性がある。とくに過去の考古学的証拠は豊富であり、現存する民族誌からの単純なアナロジーだけでは理解できない多様性をもつ。

本講義では、考古学が対象とする無文字であった過去の狩猟採集社会について学ぶことを通じ、狩猟採集経済を基盤とする小規模な社会がなぜ長期にわたり維持できたのかという点を理解する。その上で、現代社会が抱える様々な課題とその解決策を考えることができるような視点を獲得することが期待される。受講者は、具体例を知りつつ、主要な論点（資源利用、移住、技術選択など）やそれを説明するための考古学的な理論や方法についても学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：While our diet is mostly relying on agricultural and dairy products such as rice, potato, bread, cheese, and ham, humans have long history in hunting and gathering of natural resources including terrestrial and marine mammals, seafood, and nuts. Contrary to prejudice of primitive and poor lifeways, the hunter-gatherer societies show variability across space and through time, especially rich archaeological record provides variability not merely explained by ethnographic analogy.

The goal of present intensive lectures is that students reach a comprehensive understanding of the question as to why the small-scale hunter-gatherer societies could achieve to sustain for evolutionarily long time, through learning examples of past nonliterate hunter-gatherer societies that the archaeologists study. Students are expected to have prospect for giving solutions to various issues in modern world. Students also learn major topics of hunter-gatherer studies (e.g., resource use, migration, technological choice) and how archaeological methods and theory can address these topics.

5. 学修の到達目標：以下の点を知る。

(1) 狩猟採集社会の多様性、(2) 過去の狩猟採集社会に関する研究課題、(3) 現代へもつながる論点

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Study goals of students are as follows:

To understand (1) the variability in hunter-gatherer societies, (2) archaeology research issues of past hunter-gatherer societies, and (3) topics that are relevant to current social issues.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義スケジュールは、以下を予定しています。

- 1 導入：狩猟採集社会とは
- 2 現代の狩猟採集社会
- 3 人口
- 4 健康
- 5 食 (1) 栄養
- 6 食 (2) 陸上資源
- 7 食 (3) 水産資源
- 8 食 (4) 昆虫食
- 9 技術 (1) 食料獲得法
- 10 技術 (2) 調理・貯蔵
- 11 住居・衣類
- 12 移住
- 13 移動・定住
- 14 特論：スペインの事例
- 15 まとめ

8. 成績評価方法：

出席・授業参加：50%、レポート：50%

9. 教科書および参考書：

教科書は用いない。講義内に資料を配布し、関連する論文や本は適宜紹介する予定。

10. 授業時間外学習：レポートは講義に関連する範囲で、自らが関心をもつテーマや論点についてまとめる。調査課題と考察を明示すること。民族誌例や現代社会の問題（人口増加、戦争、リサイクル、宗教、格差社会など）との関連を探ってもよい。字数制限はないが、おおよそ 3000 字～10000 (参考文献除く) が目安。締め切りは、12 月 25 日。期限までに添付ファイル (Word か pdf) で中沢 (ynakazawa@med.hokudai.ac.jp) まで送付する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

科目名：考古学講読／ Archaeology (Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：中沢 祐一

コード：LB65204, 科目ナンバリング：LHM-HIS309J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古基礎理論入門

2. Course Title (授業題目) : Introduction to basic theories in archaeology

3. 授業の目的と概要：英語を母国語としない者が、欧米の考古学の基礎文献を読むことを通して、自らの英語力を高め、考古学の多様な議論に親しむことを目的とする。昨今、科学・学術の諸分野でも英語が共通言語になりつつあり、考古学を含む人文社会科学でもその傾向は強まっている。日本の大学では体系的に学ぶ機会がほとんどないが、欧米の大学では考古学を学ぶ課程でも理論に関する授業は必修であり、そこで学んだ基礎は、日常的な課題について思考をまとめる機会や専門的な論文を書く際にも役立つ。英語の論文を読んで理解するためには、学術的な専門用語の意味や用法を知る必要がある。ただし、そうしたテクニカルな部分の習得のみが最終目的ではなく、欧米の考古学の背景にある学問的歴史、依拠する理論の骨子や考古学との関連性、培われた概念などを総合的に理解し、広い視野をもつことを目指す。受講者は、元々は文化人類学、社会学、生物学などの諸科学分野で発展してきた様々な理論とも関連する、基礎的かつ重要な考古学の論文に接する。それらをテキストとして読み、論理や論点を整理しつつ、理解を深めることが期待される。一見すると、遺跡や遺物と関連付けにくい「大胆な」理論も登場するため、毎回、十分な予習が必要である。英文和訳の授業ではないが、大意をつかみ、不明な点については自ら調べる。同時配信授業によって、受講者相互の理解の程度に応じて進行速度を調節するので、わからない点があれば随時質問する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This class is designed for the non-native English speakers to know the diversified discussions in archaeology and enhance their English skills through reading basic papers published in the United States and Europe. Now, English comes to be a common language among many disciplines of science, including human sciences notably archaeology. Although universities in Japan have not explicitly offered classes that teach theories, such class is prerequisite course in programs specializing in archaeology in Europe and North America. The basic theories are useful not only in addressing issues in our daily lives but also writing professional papers. To comprehend papers written in English (by American and European archaeologists), one has to learn definitions and usages of notions appeared in papers. However, learning technical terms is not the ultimate goal. The goal of the class is to extend one's perspectives on archaeology by comprehensive understanding of disciplinary history, frameworks of theories, and notions employed in archaeology of North America and Europe. Students have to learn basic critical papers, which are related to various theories originally developed in disciplines such as anthropology, sociology, and biology. One has to read these papers and organize logics and issues. Because one may encounter "adventurous" theories that do not appear to have any relations to archaeology, it is requisite to do pre-class reading. While this class does not require full translation exercise, each student needs to summarize the paper, and if necessary, to do independent research. The present online class can adjust pace of reading in considering the progress of students who are also welcomed to give questions.

5. 学修の到達目標：(1) 考古学に関する英語の文献を読むことができるようになる、(2) 考古学における理論の多様性とその役割を知る、(3) 欧米の原著論文を読むことを通して、学術英語に親しむ。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students are expected to (1) be able to read papers of archaeology written in English, (2) learn the diversity and roles of theories in archaeology, and (3) be familiar with academic English through reading original papers published in archaeology in the United States and Europe.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義スケジュールは、以下を予定しております。

- 1 ガイダンス&イントロダクション：文献の探し方、講義の進め方・成績評価など
- 2 考古理論を俯瞰する (1)
- 3 専門文献の解読 (2) 文化史的アプローチ
- 4 専門文献の解読 (3) : プロセス考古学
- 5 専門文献の解読 (4) : プロセス考古学
- 6 専門文献の解読 (5) : プロセス考古学
- 7 専門文献の解読 (6) : プロセス考古学
- 8 専門文献の解読 (7) : 物質文化と社会
- 9 専門文献の解読 (8) : ポストプロセス考古学
- 10 専門文献の解読 (9) : ポストプロセス考古学
- 11 専門文献の解読 (10) : 一般理論としての進化論
- 12 専門文献の解読 (11) : 一般理論としての進化論
- 13 専門文献の解読 (12) : ポストコロニアル理論
- 14 専門文献の解読 (13) : ジェンダー
- 15 レポートで選んだ論文の概要 5分程度/1人

8. 成績評価方法：

出席・授業参加：20%、発表：40%、レポート：40%

9. 教科書および参考書：

講読予定論文 pdf は Google drive などを通じて受講者と共有する。関連する論文や著書は授業中に紹介する。

- ・ 現代の考古理論についてまとめた概説書
 - ・ Oliver Harris and Craig Cipolla 2017. Archaeological Theory in the N
- ## 10. 授業時間外学習：
- ・ 毎回講義で1～3本の論文を取り上げる。初見の単語、長いセンテンス、抽象的な考え方などにとまどうが、ひとまず通読する。章や節、パラグラフ（段落）ごとに大意をつかむこと。
 - ・ 毎回、論文を担当した人は、発表した論文の内容についてレジュメを共有する。講義後に Google Meet の Classroom へアップする。
 - ・ 論文解題の担当でなくとも取り上げる論文を一読してから講義に参加する。
 - ・ レポートは関心のある英語論文を1本選び、その内容を論評する。提出に先立って、その内容を口頭発表する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

- 講義内容やレポートに関する質問など随時受け付けます。
- 学芸員養成課程の講義や集中講義と重複が生じる場合早めに教えてください。スケジュール調整をします。
- eメールは英文によってお問い合わせください。中沢アドレス：ynakazawa@med.hokudai.ac.jp

科目名：考古学演習／ Archaeology (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LB55404, 科目ナンバリング：LHM-HIS310J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学研究史

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Archaeological Studies

3. 授業の目的と概要：日本考古学を中心に、明治時代以来の考古学研究の流れを整理し、今後の展望を探る。旧石器の編年と製作技術、縄文土器の型式学、縄文集落と社会、農耕社会の成立と発展、古墳文化、城柵官衙遺跡、古代窯業生産と供給、中・近世考古学その他、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行う。詳細な文献目録の作製、研究史の画期となった主要業績の解題、基本的な考古学資料の内容理解、調査研究報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students are introduced to history, method and theory of archaeological research through class presentation and discussion.

5. 学修の到達目標：(1) 日本考古学の研究史の流れを把握し、学史上の画期を整理して理解できるようになる。(2) 各時代、各地域の考古学における研究内容の広がりを理解し、現状を把握できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The course requires in depth learning of archaeological research history and actual practice. Students who are not familiar with archaeological research are recommended to learn other introductory courses before signing up to this particular methodology class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目（考古学演習）は、オンライン授業（主としてリアルタイム型遠隔授業）です。

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは fzij7bw です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. ガイダンスと研究発表の説明。

2. 学生による研究発表①

3. 学生による研究発表②

4. 学生による研究発表③

5. 学生による研究発表④

6. 学生による研究発表⑤

7. 学生による研究発表⑥

8. 学生による研究発表⑦

9. 学生による研究発表⑧

10. 学生による研究発表⑨

11. 学生による研究発表⑩

12. 学生による研究発表⑪

13. 学生による研究発表⑫

14. 学生による研究発表⑬

15. 学生による研究発表⑭

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]

(○) その他（具体的には、発表と討論）[40%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

1 0. 授業時間外学習：発表内容は、時間外に各自がまとめる。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

考古学演習を通年で連続履修することが望ましい。

科目名：考古学演習／ Archaeology (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LB65406, 科目ナンバリング：LHM-HIS310J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学の方法と理論

2. Course Title (授業題目) : Method and Theory of Archaeology

3. 授業の目的と概要：考古学研究の歴史と現状について、各自の関心領域を中心にまとめて発表し、相互の討論を通じて理解を深める。各時代の研究における、型式学と技術、材質研究、編年と地域性、生産と流通、文化変化、環境と生業活動、社会と集団、葬制、集落論など、具体的に課題を選択し、詳細な文献目録を作成し、現在の問題点を的確に把握し、今後の各自の研究指針を追究する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Students are introduced to history, method and theory of archaeological research through class presentation and discussion.

5. 学修の到達目標：(1) 日本考古学研究の現状について、学史の流れを踏まえて問題点を展望し、各自の研究テーマを具体的に追求できるようになる。(2) 近年その内容が非常に多岐にわたる考古学研究の、広がりや深まりを認識し、各自の研究方法を位置づけられるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The course requires in depth learning of archaeological research history and actual practice. Students who are not familiar with archaeological research are recommended to learn other introductory courses before signing up to this particular methodology class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassromを使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは u7ipfu です。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 学生による研究発表①
2. 学生による研究発表②
3. 学生による研究発表③
4. 学生による研究発表④
5. 学生による研究発表⑤
6. 学生による研究発表⑥
7. 学生による研究発表⑦
8. 学生による研究発表⑧
9. 学生による研究発表⑨
10. 学生による研究発表⑩
11. 学生による研究発表⑪
12. 学生による研究発表⑫
13. 学生による研究発表⑬
14. 学生による研究発表⑭
15. 学生による研究発表⑮

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]

(○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

1 0. 授業時間外学習：発表内容は時間外に各自がまとめる。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

考古学演習を通年で連続履修することが望ましい。オフィスアワー：金曜日 13：30～14：30

科目名：考古学実習／ Archaeology(Field Work)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時. 前期 水曜日 4講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LB53311, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学の調査と資料分析 (1)

2. Course Title (授業題目)：Research and Analysis of Archaeological Materials

3. 授業の目的と概要：考古学研究の基礎として、遺跡・遺物の資料化と資料操作の標準的な手順と方法を学ぶ。今年度は、土器・石器の整理、属性分析を学ぶ。通年で、出土品の処理と整理、正確な実測図の作製、コンピュータを使用した資料分析の基本などの実習を行い、基礎的な方法を学ぶ。考古学標本室の収蔵品の資料化とデータベースの実際を経験する。大学院の考古学研究実習と連動して、課題に取り組む。発掘調査報告書の作成のための方法を具体的に学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides opportunities to experience excavation, basic operation of archaeological materials, projected drawing/layout of artifacts, taking photographs for editing the excavation report. Students will obtain basic techniques and methods for archaeological study through this course.

5. 学修の到達目標：(1) 考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。(2) 共同研究の意義について、理解できるようになる。(3) 考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。(4) 発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn methodology to make an excavation report for basic archaeological study. They also learn about planning and methods for archaeological fieldwork.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目(考古学実習)は、対面講義です。

初回のみオンライン講義を行います。

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは rwhilal です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義のスケジュールは以下の通り。

出土遺物の属性入力(観察と計測、入力と統計操作)①

出土遺物の属性入力(観察と計測、入力と統計操作)②

発掘調査実習①

発掘調査実習②

出土遺物の属性入力(観察と計測、入力と統計操作)③

調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築①

調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築②

遺物の実測と製図①

遺物の実測と製図②

遺物の実測と製図③

遺物の実測と製図④

遺物の実測と製図⑤

測定の基礎と機器の操作①

測定の基礎と機器の操作②

測定の基礎と機器の操作③

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]

(○) その他(具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み)「30%」

9. 教科書および参考書：

教室にて指示。

10. 授業時間外学習：夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

考古学実習を通年で履修することが望ましい。15回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。

科目名：考古学実習／ Archaeology(Field Work)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LB63311, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学資料分析法 (2)

2. Course Title (授業題目)：Methodology of Archaeological Analysis

3. 授業の目的と概要：5セメスターに引き続き、実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また通年において、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を発掘調査現場において学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides actual experiences of archaeological research. Archaeological records and excavated artifacts from the investigation by the Laboratory of Archaeology, Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University are used in the class. The method of analysis and production of excavation reports are practiced during the class hours. A heavy load of homework (off class hour laboratory work) is expected. Good commands of the Japanese language are necessary especially during discussion and laboratory work.

5. 学修の到達目標：(1) 考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。(2) 共同研究の意義について、理解できるようになる。(3) 考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。(4) 発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Basic skills of archaeological work can be learned in this course through practice.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassromを使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは rwhilal です。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (1)。

2. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (2)。

3. 遺物の観察・記録と図化 (1)。

4. 遺物の観察・記録と図化 (2)。

5. 遺物の観察・記録と図化 (3)。

6. 遺物の観察・記録と図化 (4)。

7. 製図・トレース・レイアウトの作成 (1)。

8. 製図・トレース・レイアウトの作成 (2)。

9. 製図・トレース・レイアウトの作成 (3)。

10. 写真撮影 (1)。

11. 写真撮影 (2)。

12. 写真撮影 (3)。

13. 保存処理に関する研修。

14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (1)。

15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (2)。

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]

(○) その他 (具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み) [30%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示。

10. 授業時間外学習：講義内で課題が終わらない場合には宿題となる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

考古学実習を通年で連続履修することが望ましい。発掘調査の出土量や作業の進捗に応じて、講義内容は前後します。